

会 議 録				
平成26年度第4回 社会教育委員の会議	日 時	平成26年8月22日(金) 午前9時30分～11時00分	場 所	小金井市第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	中村議長、原嶋副議長 樋口、石田、樹、本多、倉持、小山田、清水 各委員		
	その他 事務局	西田生涯学習部長 石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長 伊東生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
<p>1 報告事項</p> <p>(1) 視察研修について</p> <p>(2) 小委員会について</p> <p>(3) その他</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について</p> <p>(2) 第5ブロック会議について</p> <p>(3) 第5ブロック研修会について</p> <p>(4) 科学の祭典について</p> <p>(5) その他</p>				
<p>1 報告事項</p> <p>(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について</p> <p>(中村議長)</p> <p>まず冒頭に、事務局から配布資料のご説明をお願いしてよろしいか。お願いする。</p> <p>(石原生涯学習課長)</p> <p>では、配布資料についてご確認をお願いします。</p> <p>まず、団体用の生涯学習推進計画の評価に係る調査、アンケートということで、体育協会用、PTA連合会用、ソロプチミスト用、文化連盟用、P～ステップ用ということで、最終版をご配布させていただきました。</p> <p>続いて、東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック会議の次第、それからブロック研修会の事業計画書、最後に配布させていただいた「コミュニティ・スクール」視察研修の報告書、それから、中村議長からビブリオバトルのお知らせを配らせていただいている。</p> <p>それから、「月刊こうみんかん」の436号と、平成25年度事業のまとめをご配布させていただいている。過不足、落丁等あったらお申し出いただきたい。</p>				

(中村議長)

それでは、式次第に協議事項のみあるが、報告事項が2点ある。先に報告事項を2点済ませて協議事項に入りたいと思う。

最初に、コミュニティ・スクール、今般7月25日に視察を行った視察研修の報告・感想ということで、ご丁寧に表にさせていただいているので、清水委員から概略をかいつまんでお話しただけないか。願います。

(清水委員)

先日行った報告書と私の感想をまとめて書かせていただいて、1ページ目は、大体こんな視察だったという記録として残したいと思ったので書いているが、私も定かでないところがあって、時間とかも、記憶がはっきりしないところは、こう書いてしまっているということで、間違いがあれば訂正して、原文の文書ファイルは業者さんに出している。修正していただいて、正確な記録を残せばということで、一読していただいて、これは違うというのであれば、伊東さんへご連絡いただければということで、内容は皆さんご存じなので割愛させていただいて、裏面に私なりの感想を書かせていただいている。

そこを簡単に紹介するが、私、コミュニティ・スクールってあまり知らない状態で参加したが、非常に有益な視察研修だったというものがまず第一にある。しかも、2つの学校を同時に見られたということで、それぞれ違った結果もあるし、取り組み方も若干違うとか、いろいろな意味で比較検討ができて大変よかったなと思った。

こういうことを皆さんやっているのだというので私も驚いたのだが、向陽中学と七小で違った取り組みがあって、いずれにしても、非常に重い負担になる事業を、教職員の方々、保護者、地域の方々が一生懸命取り組んでいるということには本当に感心した。ただ、これを継続的にやっていくということが、いずれも大変そうなお話もあったし、実際やるとなったら大変だろうなということで、そこら辺をどう今後克服していくのかなというあたり、気になるところである。

2つ、運営協議会ということで、学校の経営方針やなんかをある意味でオープンにして、いろいろ民意を反映させるという形は、運営協議会という体制の中でやられていて、そういう外部の意見を取り入れるというのは、PTAだとか、あるいは協議会組織というのがあるのか、そういういろいろな形もあるようなので、それぞれどういう開かれ方をするのかというあたりの整理さえできれば成果が出てきやすいと。私も実は多摩科学技術高等学校の運営協議会委員になっていて、そこでいろいろ発言をさせていただいて、それが学校の中へそれなりに反映されてくると、非常にやりがいがあるなという印象を持っている。

そういう意味では、比較的取り組みやすい課題かと思うが、一方、学校支援本部という、地域と密着していろいろやるというのは、かなり負担がかかってくる。教職員の方々は一定期間やっているのですが、外部にいるコーディネーターというのが、どう学習して継続的に取り組んでいけるかというあたりが大変大きな課題だという印象を持った。

翻って、小金井でこういうことをやったらどうなるかというようなこともいろいろ考えてはみ

たが、そういう中で感じたのは、地域コミュニティの弱体化みたいなことがやっぱりあって、この間の佐世保の事件のようなこともあるし、いろいろな意味で、教育現場でそういうことが反映したような事件が起きているという中で、これは米国の自由至上主義と書いているが、弱肉強食的な考え方、そこら辺が、生活スタイルだとか社会規範的な主義というよりは、そういう身の回りの規範にまで及んできて、いろいろな意味でコミュニティが弱体化、人間関係が疎遠化しているのではないか。そういうあたりが教育現場にも影響しているのかということ、いろいろ考える中で感じて書かせていただいた。

欧州のことを実は書いているが、なぜこんなことを書いたかということ、私、昨年、ドイツ、フランスと行ってきた。今、商工会の副会長ということで、多少そういう商業活動がどうなったのかみたいなことは意識しながら欧州の街並みを見ていたのだが、そういう中で、欧州の場合には、例えば大型店は休日をとりにさいとか、あるいはバーゲンセールをやるにしても、のべつ幕なしやるのではなくて、一定期間を決めて、その間バーゲンセールをやるということで、個人事業主をそれなりに保護、サポートしているという制度、体制がある。

実際、街中に大型店がのさばっている雰囲気はなくて、個性のある店が、それなりに元気で店を開いているというような街、そういう街ってやっぱり安心する。街ごとにおもしろさを感じる。そんな風景を見て、欧州の考え方というのもいいのではないか。米国式一辺倒の感じがある中で、やはり欧州方式というのを学んでいく必要があるのかなということ、教育現場を見る場合も、欧州を参考にしたら、また違った考え方が出てくるのではないか、そういう私の経験も含めて書かせていただいた。

以上である。

(中村議長)

ありがとう。

海外との教育事情の比較等について、鋭いご指摘をいただき、ありがとう。私の主観だけでも、前回のコミュニティ・スクールの視察に、山本教育長にお越しいただいたというのは、非常に重いことだと思う。そういう意味では、実現についてはいろいろハードルが高いと思うが、一歩前進したかなという感じはする。これが一つ。

もう1点は、この前出席いただいた学校のコーディネーターの方、最初の杉並のコーディネーターの方と個人的にお話をしていると、皆さんが学校の卒業生であるということが一つのキーワードかなと私は思う。それによって、学校、コミュニティ・スクールの運営に当たっても、やっぱり愛着を持ってコーディネーターに取り組めるのではないかと、そういうのがまたみんなに伝わっていくのではないかと私は個人的に感想を持ったので、ご披露させてもらう。ありがとう。

(2)小委員会について

(中村議長)

続いて、報告事項で2番目になるが、6月10日に小委員会が、大分前になるが、行われた。その報告を原嶋副議長からお願いできるか。お願いする。

(原嶋副議長)

6月10日ということで、おさらい、確認の意味で報告させていただきたい。

6月10日は、5名の方が出席され、課からは石原課長、伊東主事が出席された。

まず、第1番目は小金井市生涯学習推進計画、今日の表題がほとんどダブっているわけであるけれども、4人の関係団体の方からアンケート案が提出された。ただ、1ページ目は、現行の基本目標を掲載して、まず、このことについて周知しているかどうかを、事務局側が依頼文を作成。2ページ以降は、独自性を持たせて、各関係団体に質問を掲載するというので、既に出ているものがほとんどだから、あるいは、既に進行しているのではないかと思うアンケートについては、30日までに回収ということで決めていた。

次に、26年度視察研修について。関東甲信静、社会教育研究大会、これはこの前のバスの中でも確認したかもしれないけれども、私と本多さんとで研究大会に参加するということである。また、今報告があった視察研修については、向陽中と国分寺の七小へ行く事で確認をそこでした。

次に、今日の案件にあるけれどもブロック研修のテーマについて、これは中村議長からご提案されたのが、NPO法人などの市民主体の組織が新しい社会教育に貢献できる可能性について、新しくセンターも開かれるということで、施設見学を初めNPOの関係の事例発表もしていただくということで、主にそれを考えていこうという事になった。

その中で、ここにここで特筆されるのは、施設内にヤングアダルトコーナーが設置されている。こういった若者たちに事例発表してもらってはどうかという意見もある。今日は最終的な詰めになってくるのではないかと思っている。

また、科学の祭典は、議長さんからも、社会教育委員の会議として出展するというので、出展に先立ってテトラやパネルの作成が必要になる。今日、この本会議後に皆さんで集まって出展の準備をしようということである。雑駁だけれども、一応6月10日の小委員会の報告を以上で終わる。

(中村議長)

ありがとう。

この件について、ご意見おありの方はいらっしゃるか。特にこれはご報告ということで承る。

(3) その他

(西田生涯学習部長)

それでは、その他ということで事務局から、第2回小金井市議会の定例会の概要についてご報告をさせていただく。

まず、一般質問であるが、生涯学習部関係として6人から7件の質問があった。生涯学習課の関連は4件であって、概要だと、文化財について、それから清里山荘の利用率向上へ向けて、玉川上水の整備活用について、文化財センターや名勝小金井(サクラ)復活プロジェクトについて、以上4件の質問が出ている。

図書館については3件。ハンディキャップサービス環境の改善、それからビブリオバトルによ

る読書活動の普及、貫井北分室の蔵書充実についてというような質問が出た。

次に、厚生文教委員会、6月11日に開催されているが、その関係では行政報告が2件。生涯学習課から小金井チャレンジデー2014の実施結果について、及び公民館から貫井北センター1階の天井からの水漏れについての2件を行政報告している。

チャレンジデーについては、5月28日水曜日に実施をした。今年度初参加で、周知準備期間が十分ではなく、対戦相手には及ばなかったが、3万人を超える市民の方の参加を得たことの感謝の意を含めて報告をした。

また、貫井北センターの件は、1階受付前の天井から一時水漏れがあったこと、及びその原因が空調配管の接着部分のふぐあいであり、翌日、修繕が完了したこと。また、改めて全体的な点検は行うことなどを報告した。

陳情・請願については、今回はなかった。

その他、平成26年度第2回補正予算については、平成26年度第2回一般会計補正予算が可決されている。生涯学習部関連では、全庁的に行われる臨時職員に交通費相当分を支給する増額補正があったほか、総合体育館と栗山公園健康運動センターといった2カ所の指定管理により管理される建物について、指定管理者により警備を行う追加費用が可決された。これは事務執行の効率性等の総合的な観点から、8月から総合体育館内に従来あった生涯学習課スポーツ振興係の執務室が、第二庁舎7階に引っ越しをした。その関係で、市が直接警備することを廃止することにしたので、それに伴うものである。

雑駁だが、報告は以上である。

(中村議長)

ありがとう。

それで、北町センターの蔵書の関係について、議員さんから質問が出ている。どういう質問内容で、どういうふうにお答えになられたか教えてください。

(西田生涯学習部長)

貫井北センターがオープンして、本の数が本棚の数からすると寂しい状況だけれどもということについて言われて、それについては、今回も5,000冊予算がついているけれども、今後、ちょっとずつ蔵書を増やしていくので、ということでお答えしている。

(清水委員)

利用率が高いということが出てくる。私も近くに孫家族がいて、あそこの本は新しいからよく借りてきたけど、そういうことはないのか。

(上石図書館長)

蔵書数については、本館が持っているのが一番多くて、次は貫井北分室である。書架ががらがらだというのは、最初から5万6,000冊入るところを4万冊でオープンしている。約8割から始まっているということで、そもそもが少なかった。蔵書いっぱいオープンしていないので、さらに利用が多いので、書架ががらがらだと思われるかもしれないのだけど、5,000冊ずつ入れ

ていく予定なので、4、5年でいっぱいになってしまうと思う。そうすると、今の本館やほかの分室みたくぎゅうぎゅう詰めになっていくことになってしまうので、本来的にはゆとりある図書館づくりがいいとは思いますが、余りにもがらがらだという印象が、ほかと比べてあると思う。

(中村議長)

それと関連してだけど、小金井市の蔵書方針としては、市全体で蔵書を持つという方針なのか。例えば私が個人的に利用して思ったのは、貫井北の図書館については、新書とか文庫が少ないような感じがした。ただ、それは、そこになくても東センターにあったり、緑センターにあったりとか、そういう市全体の蔵書方針という感じで考えておられるのか。

(上石図書館長)

市全体というのが一つにはある。ただ、今回、貫井北分室に関しては、2年間で4万冊そろえる。新刊と既刊本とでかなり厳しい状況だった。文庫本、新書棚もつくってあるけど、そこに関して、やはりおさまってないことから、中村議長がおっしゃるように、少なく見えるのかもしれないけど、文庫本も少なくはない。新書については、新書サイズのものほかの一般書架に入っているのだけれども。

(中村議長)

そうなのか。新書だけまとめて置いてないからそういうふうに見える。

(上石図書館長)

そうである。本館は新書棚があるけど、ほかの分室の新書は、ほかの図書として入れてあるものと、その館によって狭かったりするので、わざわざそこに新書棚を設けられなかったり、そのスペースもないということと、あと、新書に関しましては、ここ数年にいろいろな新書が出た。少し前だと岩波新書、中公新書、講談社現代新書しかなかった新書サイズが、今はありとあらゆる出版社から出ているので、それを全て別置きすると、またそれはそれで大変になってしまうので、利用者の立場から見ると、サイズごとによって一般のものところにあたり、そうじゃないところにあたりというのは、やはり使い勝手がいいと思う人と悪いと思う人とあるので、その辺は難しいところである。

先ほどのご質問に戻ると、蔵書は全て選書会議によって諮られているので、そういったことは、各館の選書委員のほうからいろいろな意見を出し合って、毎週きちんと意見交換をしているので、全体で見ているところである。貫井北に関しても、分室長に来ていただいている。

(中村議長)

今、上石館長がおっしゃった選書選定委員、それはどういう方になっているのか。

(上石図書館長)

分室は、各分室から1人ずつ出てきていただいている。本館においては、奉仕係長が責任者、リーダーになっている。あと、一般室から1人、児童室から1人。一般書と児童書と担当が違う。担当ごとに見ているので、そういう構成になっている。最終的には図書館長が決裁をしている。選書会議は、選書会議設置要綱に基づくので、奉仕係長がトップである。繰り返しになるけど、

本館の一般室、児童室、及び参考資料室、並びに分室の職員各1人ということになっている。選書会議の座長を置くということで、その座長は本館の奉仕係長が行っている。

(中村議長)

選書の基準というのは、どういう基準で選書されるのか。

(上石図書館長)

選書の基準は、図書館運営方針の中に選書基準を設けている。以前、小金井市の図書館運営方針をお配りしたかと思うが、その中には選書基準は入っていないけれども、平成元年につくられた選書基準を今も踏襲しているということで、こちらのほうに、選書に当たっては、選書基準に照らし合わせるということで、かなり細かな選書基準が何ページにもわたり入っている。及び除籍の基準も設けている。そういったことも、これに照らし合わせて公平にということをやっている。必ず選書会議に全ての本がかかっている。皆様からいただいた寄贈図書なども、全て選書会議にかかって、選書基準に照らし合わせているというようなことになっている。

(中村議長)

その選書基準のもとは今も書面にしてあるということか。

(上石図書館長)

平成元年につくられた小金井市図書館運営方針の中に入っている。改訂版ではそこは触れてないけど、こちらを踏襲するということが改訂版にも書いてある。

(中村議長)

私もちらっと本かなんかで読んだ覚えがあるけど、いわゆる書評みたいのが何かあるらしい、図書館のほう。そういったところから本を選択されるのか。

(上石図書館長)

選書に当たっては、もちろん図書館の職員の資質が問われる。

図書館で使う0から9という分類があるけれども、

その中で公平に、公正に、それも書架のスペースに合わせたり、ニーズに合わせたりということで、かなりきちんとやらなくてはいけないという、図書館の中で一番重要な業務と思っている。

図書館の職員は、そういった目を肥やすということで、新聞の書評は必ず読まなくてはいけないと思っている。ただ、今、図書館司書が少なくなっている。そういったことを、事務職で回ってきた職員は、自己研さんを積んでもらうということで、かなり業務外でも頑張っていたかかないと、なかなかレベルを維持できないと思っている。ただ、事務職で異動という状況は、図書館行政の中でもますます最近は言われているけれども、何とかしなくてはいけないと思っている。市の方針で、私が司書を採ってほしいと申し上げたとしても、難しいところがあるので、やっぱり一般事務職で異動してきた職員の努力と、資質とか、そういったことは大切なことだと思っている。

(中村議長)

最後に1つだけ。すみません。膨大な本が今出版されている。そこからどういうふうなフィル

ターを通して選書されるか、そこだけちょっと教えてほしい。

(上石図書館長)

新刊というのは、毎年何万冊がある。毎月にするると2,000とか3,000レベルだけれども、それが、図書館向けということで、ある一定の業者さんがリストを毎週発刊している。それには本の表紙とか、概略とか載っている。大概1センチぐらいで、3,000冊ぐらいの簡単な案内がある。ガイドブックみたいに。それを購入して、それで選んでいる。一定の基準というのがあるが、新刊案内ということだ。その中から選んでいるのではなく店頭に行って実際本を見て選んだりとか、いろいろな方法がある。後追いで買うものはもちろんあるし、新刊本だけではなくて、やはり選んだ本で、これはどうしても貴重なのでまた買いかえるということもあるので、新刊本プラス旧刊を買いかえして補充していく。そういったことで、かなり重要な仕事だと思っている。

2 協議事項

(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について

(中村議長)

では、続いて、ご意見ないようでしたら協議事項に移らせていただく。

議題の1、第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査についてということで、お手元の資料でご確認いただきたい。各社会教育関連団体宛てのアンケートの依頼文があるので、一応確認ではあるが、各団体への依頼というのは済ませていただいたという理解でよろしいか。まだである団体はないという理解でいいのか。

(樋口委員)

P T Aの件に関しては、夏休み期間とお盆期間を挟むということで、逆に、このアンケートを学校に取りに行ったりとか、そういうことがしにくいということなので、この後半の期間で出して、夏休み明け、特に19日までに締め切りという形にさせていただくように相談している。

(中村議長)

では、前倒しで設定していただいているということか。

(樋口委員)

今の段階では、全体にはまだおろしていなくて、一応上の方と相談して、もうちょっと間近で、夏休みの後半でおろして、そして夏休み明けぐらいからさせていただくような形にしている。

(中村議長)

ありがとう。

では、この後については、各団体に投げかけはさせていただいて、9月末の回収に向けて、今はもう着々と進めていただいているという理解でよろしいか。

では、また集まってきた分を、10月の中旬ぐらいに小委員会で集約等をできればと考えている。そういうスケジュールで今動いているということでご理解いただく。

この件について、何かご意見。

(清水委員)

このアンケートをとって、9月30日に出てきて、アンケートのまとめ方という、ここはそれを報告事項に整理しておく、そういう筋道というのは協議会の中で議論されているのか。

(中村議長)

この中、協議会で。

(清水委員)

小委員会の中でやるのである、そういう細かい、具体的な部分。

(中村議長)

ええ、まずは一旦。

(清水委員)

その中身として、そういうスケジュール的、要はアンケートをとることが今まで主で進んできたけど、それをどう関連づけていくという議論は進んでいるのか。

(中村議長)

そこまではまだ議論はされていない。逆に、またその辺でご意見があれば、各委員の方からのご意見を賜ればということで。清水委員、何かご意見あるか。

(清水委員)

いや、特にないのだけど、非常に難しいところ、アンケートも記述形式が多いから、どう整理していくのかというのが。

(中村議長)

そうである。そのあたりは、事務局とよくお話し合いを持ちながら、共同歩調をとって進めていきたいと思う。主眼点として、第3次生涯学習推進計画の作成に当たって役立てるということもあるし、それから第2次生涯学習推進計画そのものの評価というところ、その2つを軸に考えていこうとは思っている。

(清水委員)

というのは、気になるのは、いわゆる積み上げ方式で、下から出てきたいろいろな提案を積み上げていって方向を定めていくというやり方と、ある程度委員の中でこういう方向性があるのかなという意見をまとめておいて、それでアンケートを見て、こういう視点もあるのか、こういう事例で、ああなるほどとか、要は視点を定めておいて、そのアンケートを見るというやり方、大きく分けると2つあるかと思うのだけど、積み上げていく方式というのは非常に難しいし、なかなかまとまらない。だとすれば、ある程度の基本の構成を持った上でアンケートを見ていくというほうが効果的ではないのか。とすれば、そういうことを事前にある程度進めておかないと、アンケートの評価自体ができなくなるというか、定まらないという気がしていたものだから、そこら辺を小委員会ではどう考えているか、そういう趣旨の質問である。

(中村議長)

なるほど。鋭いご指摘、ありがとう。

それで、この件について、事務局としての見解を教えてください。いかがか。今、清水委員からお話があったけれども、出てきた意見に基づいて考えていくか、あるいは、社会教育委員の会議としてある程度方針を立てて、それに基づいてアンケートの結果を集約していく、その辺はどうなのか。

(石原生涯学習課長)

共通項目にした生涯学習推進計画を知っているかという周知度があり、積み上げるべきところと言うのが、基本目標についてのご意見というところで、目標をどういう方向性にするか、そこが分量としては多く集まってくるころだと思っている。それ以下の質問については、各団体別に特化した質問になってくるので、方向性を左右するものでないところが集まってくるのかと思うので、こういうものをやるべきとか、そういったところに反映させていけばいいところについては、コンテンツが多く集まっていくことはいいことではないのかなと思っているので、積み上げていくべきところは少ないので、割とそれを見た上で、社会教育委員の方々が、こういう計画に持っていけばいいのではないかというふうに、判断しやすいようなアンケートで評価するものに結果としてなったのかと思っている。

(清水委員)

よくわかった。

(中村議長)

よろしいか。

では、とりあえずは、出てきたものを、1回目を通してから、その辺の社会教育委員としての考えを出していくような形でよろしいか。今おっしゃった。いいか。

(清水委員)

はい。

(中村議長)

では、この分については、とりあえず9月30日以降に、どういう内容で出てくるかというのを見ながら方針を立てていくような形でよろしいか。

この件については、各委員のほうからご意見ないか。よろしいか。

(2) 第5ブロック会議について

(3) 第5ブロック研修会について

(中村議長)

次の項目、第5ブロック会議についてということと、それから、あわせて第5ブロック研修会についてということで、このことについては私からご報告をさせていただくが、お手元の資料をごらんいただきたい。これは前にも目を通していただいていると思うけれども、ブロック研修会事業計画書というこの部分と、それから、7月30日の午後3時から、私と、事務局、石原課長、牛込係長、伊東主事が出ていただいたブロック会議についての報告書に基づいてお話をさせてい

ただく。

このブロック会議については、武蔵野、三鷹、府中、調布、狛江、そして小金井ということで、主立ったところとしては、各市の社会教育委員の議長と、それから事務局が出ていただいたということで、挨拶、自己紹介に始まって、議題としては、第5ブロックの研修会をどうするか、それから東京都市町村社会教育委員連絡協議会役員会・拡大役員会の報告、その他ということになった。

まず、こちらのブロック研修会事業計画書について、私ども、テーマはそのままなんだけれども、小金井で、私が素案を作成した中で、ちょっと手直しが入ったということをご報告させてもらいたい。前のお渡しした中では、テーマが一部変わっているということで、テーマ、NPO法人など市民主体の組織が、これからの社会教育に貢献できる可能性についてということになっているが、前、私が皆様にご提示させていただいた内容としては、2行目、「新しい社会教育に貢献できる可能性について」と、この「新しい」という文言については、ちょっとご異議があつて、新しいとなると、これまでは古かったのではないかというふうに誤解を招くのではないかというご指摘をいただいたので、そこを、新しい文言として「これからの」というふうに差しかえをして、皆様のご了解をいただいた。ここが1点変わった点である。それ以外は、ほぼ原案の内容どおりであるということになる。

それで、時間については、10月25日の14時から16時半が研修会、その後、16時半以降は、場所をかえて商工会館で懇親会を行うということになる。

ブロック会議の内容については、前半部分で、貫井北町センターを運営するNPO法人の鬼山事務局長から、NPOが設立されてオープンするまでの経緯についてお話ししていただくということと、その後に施設見学ということで、図書館部分、それから公民館部分の視察をしていく。それが終わってから研修会ということで、テーマを2つ設けて、その2つのテーマについて、分科会という形で、各市町村から出てこられた方が入りまじるような形で、幾つかのグループを形成して、そのグループを形成した中で、小金井の社会教育委員が各グループに1人ずつ入っていただいて、コーディネーター役を務めていただければということを考えて。

テーマについては、市民の立場に立った社会教育委員のあり方についてというテーマか、あるいは青少年の居場所づくりというか、あるいは青少年の社会教育における参加ということ。その2つのテーマについて、各グループでどちらにするか決めていただいて、それについて各グループが分科会で話し合ってくださいという形にしたいという方向性が出た。

時間配分としては、施設の概要説明、NPOの沿革、それからオープンまで、その辺と、それから施設見学で約1時間、そして残りの1時間半で分科会という形で、2つのテーマに基づいて討議していくという形にしていこうという方向性が出た。

そして、以前にちょっと、ご本人には内諾をいただいたけれども、会議については、司会を小山田委員にお願いしたいということで、ご本人の内諾はいただいているので、お願いします。

それからあと、それを終わってから、ブロック研修会については、いわゆる懇親会部分につい

ては原嶋副議長と清水委員にお願いしたいということで、内諾はいただいている。

この件について各委員からご意見をいただければと思うが、内容が盛りだくさんなので、時間配分をきっちりやっていかないと2時間半で済まないのではないかと危惧はしている。その辺で、中身を非常に精査しなければならないのだけど、きょうの4時から、私と、それから石原課長、NPOの鬼山事務局長、公民館長とで、いわゆる研修会の冒頭部分について、どういうお話をいただくかについて詳細な打ち合わせをする予定である。それに当たって、全般的なところで、各委員の皆さんから、ご意見があったらこの場で承りたいと思うが、いかがか。

(清水委員)

分科会の運営の仕方を、もう一度教えてもらいたい。

(中村議長)

分科会の運営の仕方については、対象市である武蔵野、三鷹、府中、調布、狛江、小金井で、各委員が均等にそれぞれのグループに。

(清水委員)

主体委員がまとまるのではなくて、グループを分けるわけか。

(中村議長)

そうである。グループに分けて、例えば1つのグループに武蔵野、三鷹、府中、調布、狛江、小金井の方が同じ数入るような形で構成する。そういうグループを幾つかつくって、必ず小金井の委員の方については、当日、欠席なさないようにお願いしたいのだが、コーディネーター役というのが、司会役を務めていただいて、その2つのテーマ、どちらか選択していただいたうちの1つのテーマに基づいてコーディネーター役をしていただく。そのコーディネーター役をしていただいて、最後にグループで出てきた意見を発表するという流れで考えている。

各市からの事例発表というのは、今回は特に時間的な制約がかなりあるので、なしということで。だから、重立ったところとして、やはりその分科会、各グループに分かれた中での意見集約がポイントになってくるのではないかなと思うので、各委員の皆さんにおかれては、うまくその辺のかじ取り役をしていただいて、議論が活発に行われるよう、ご配慮いただきたいというお願いである。

それから、もちろんのこと、小山田委員には、前半、ひとつよろしく願います。

(小山田委員)

はい、わかった。

(原嶋副議長)

幾つか確認させてもらおう。先ほど小委員会から報告したけど、今度は、センターの中身の中で、若者というのが結構特筆されているのかなという意味で、若者たちの活動みたいな報告は特に出ないということか。

(中村議長)

ごめんなさい。それについては、今、小山田委員、どうか。

(小山田委員)

時間的に、今のお話だと、事例というか、発表みたいな形では厳しいのであれば、分科会の中で、こういったことがあるぐらいな感じなのか。どうか。時間的なものがあるので。

(中村議長)

そのあたり、よく精査しなければならないのだけれども、きょうは打診をお願いするということでお話したかと思う。学生さんに出てお話しただけそうか。

(小山田委員)

倉持委員とご相談をしなくてはいけないと思う。

(倉持委員)

学生は、そういうのでは「はい」とか「うん」とか言わないので、中身がないともちろん出てもらえないし、あいているとかあいてないとかでは、なかなかそれでは集まらないので。

(中村議長)

なるほど。中身については、この前、北町センターでやっていただいた内容でできるのか。

(小山田委員)

後ほど、倉持委員ともう一度ご相談させていただければ。すみません。

(中村議長)

私と、小山田委員、倉持委員でちょっと調整させていただいて、事例発表いただけるかどうか、その辺は早めに詰めて皆さんにご報告したい。

(原嶋副議長)

今、2つのグループ研修の中身が、市民の立場と青少年の居場所。これは2つともやるのか、自分の得意分野って皆さんあるかわからないけど、その分野でやるのか、この2つのテーマを。例えばイメージすると、1時間ぐらいお話し合いをして、当然僕らは司会進行しなくてはならないのだけど、一方で、グループ研修の報告をしなくてはいけないのではないかと考えている。そうすると、例えば正味1時間で話し合いをして、30分ぐらい順番に私どもが立って報告する形になるのかもしれない。そうすると、2つのテーマを30分ぐらいずつ切りながらやっていくのか。

(中村議長)

その辺については、この前の役員会で、はっきりはしていなかった。小金井にお任せということだった。だから、ここでまたご意見があれば、1つは10月25日にテーマをその場で決めてしまう。ただ、これだと若干時間がかかるのではないかという危惧はある。それか、あるいは、このグループはこのテーマでというふうに、初めにあらかじめ1から3のグループは市民の立場に立った社会教育のあり方について話し合う。それからもう一つ、4、5、6のグループについては青少年の居場所づくり、決め打ちしてしまうという2つのやり方があると思うが、そこをどうするか。時間的な配分を考えれば、後者のほうが時間の短縮になるのではないかと思う。この辺について、ご意見があれば承りたいと思う。お願いします。

(石田委員)

前、日光に行ったときには、その場で課題があったのを分科会で決めてやったのだけれど、参加者に、このサブタイトルがあるわけだから、どちらのテーマに参加したいかという参加人数を結局募るわけである。そのときに、サブタイトルのどちらに参加したいかというのを聞いておけば、人数が大体把握できるのと同時に、私たちは、司会、コーディネーターするときに、内容が手詰まりになる場合がある。そうすると、そのテーマの事例を幾つか事務局なり何なりにいただければ、誘導する方向性ができるので、できればこの2つのテーマの両方を頭に入れて、いろいろなことを私たちがコーディネートするようにと言われても、ちょっときついかなど。

(中村議長)

それまでやると、なかなかきつい。

(石田委員)

はい。私自身、対応できるかどうか。皆さん、結構活発に出してくれるとは思いますが。

(中村議長)

ありがとうございます。ほかにご意見はあるか。

今の石田委員のご意見は、なかなか的を射た内容ではないかと思うが、いかがか。では、初めにある程度テーマを決めて、参加する委員の方にも周知しておいて、その割り振りをしてしまう。当日は、自分が選択したテーマに基づいて、小グループで意見を言っていただくという形にするか。では、事務局も、そのあたりを各参加者に連絡していただいでよろしいか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

あと、我々としては、得意分野もあろうかと思うので、小金井でもご自身の得意とするほうでいいと思うが、お考えいただければということでもよろしいか。今もう決めてしまうか、それともちょっと時間があつたほうがいいのか。

(清水委員)

全員出たとして何人になるのか。全員で。

(中村議長)

10人。ただ、欠席される方っていらっしゃるか。

(倉持委員)

私、その日は入試である。すみません。

(中村議長)

ということは9人。

(倉持委員)

ちょっと最後のほうかわからないかもしれないが。

(清水委員)

先ほどの原嶋副議長のように、コーディネート、先導しながら、なおかつ発表するといふときが多いので、本当は2人ベースぐらいで役割分担するとやりやすいかと思う。

(中村議長)

そうである。

(清水委員)

ええ、そうである。そうすると、10人いても5グループしかできないということなのか、多
少市から応援に入ってくれるのか。入らない。

(石原生涯学習課長)

ブロック会議の中で出た話は、決定事項ではないけど、事務局は事務局の分科会テーブルをつ
くって、事務局間の交流を図れという意見があったので、ちょっとそのお言葉に甘えようかなと
思っているのだけど、どうか。

(清水委員)

そうすると、発表は出てきた方の誰かに割り当ててしまうほうがいい。コーディネーター役と
して。ちょっと厳しい。

(中村議長)

だから、それは小金井以外の方に発表していただいて、コーディネーター役だけは間違いなく
小金井で担当するという方向性でよろしいか。ほかに何かご要望は。

(石田委員)

そうすると、例えば分科会が6つできたとする。そうすると6グループ全部が発表する体系を
とる。例えば10出たら10だけの時間配分をとるということである。

(中村議長)

はい、そういうこと。

では、よろしいか。発表者は小金井以外の方に各グループから発表していただく。コーディネ
ーター役は小金井の委員さんがするような形にさせていただく。もちろん、その前に事務局から各
市に対して、どっちのテーマで、どの委員が参加されるかというのを集約いただく。集約した段
階で、幾つのグループにするかというのは考えるような形でよろしいか。

では、方向性で決めていきたいと思うので、よろしく願います。

ご異議ある方はいらっしゃるか。大丈夫か。

(原嶋副議長)

来月この会議はあったか。

(中村議長)

ない。

(清水委員)

9月ない。

(原嶋副議長)

10月か。

(中村議長)

10月。小委員会が10月にある。

(原嶋副議長)

そうすると、来月ないと、例えばさっき言った、得意分野ではないけど、そういうのをある程度絞ってやっていかないと、当然、コーディネーターをやるのは、石田委員がおっしゃったように、少し勉強していかなければいけないと思う。青少年の居場所とか。幾つやるのか、あるいは僕らで何人ぐらい出られて、2人ずつ分けていくのかとか。9月がないとすると、ちょっときつい。絞っていかないと。

(石田委員)

24日の午前中となると前日である。

(原嶋副議長)

前日だと、僕なんかほとんど勉強してないから、やっぱりある程度目標を定めて勉強するんだみたいなので臨まない。

(中村議長)

10月9日の小委員会はある。それは全員ではない。石原課長、どうするか。何市の誰々さんがどのテーマでというのは、締め切りを早めにして集約していただいて。

(石原生涯学習課長)

ただ、この間のブロック会議の中でも、このテーマで会議を持てる日がないという市もあった中で、さらに細かい、どっちに出るかというところまでの集約ができるかどうかというような、事務局で腹案を持ってほしい、事務局でこういうふうに誰をAグループ、誰をBグループって決めておいてほしいと言い切って投げてしまうかである。

(中村議長)

そうである。それで行くか。

(石原生涯学習課長)

ええ。

(中村議長)

ただ、そのどっちに出るかというのは、別に会議を持たなくても、メール等で意思確認することは可能だと思う。ただ、事務局に一任して、今、石原課長がおっしゃったようにしてしまうほうが早い。その辺は、そういう聞き方でいいか。

(石原生涯学習課長)

ええ。

(中村議長)

では、それ、締め切りを早めに設定して、大体どのぐらいのボリュームの人数がどっちにというのを、いつごろに集約すればいいか。

(石原生涯学習課長)

ただ、聞いてやると、各市で10人いたら、5人こっち、5人こっちみたいな分け方を、聞いてどっちにするかってやりとりする時間がないという市も結構出てきてしまうので、半々ずつになってしまうのではないかと。どうしてもこっちをやりたいとかいうことを集約できた市はそれをそのとおり受けるけれども、まずそういう市のほうが少ないのではないかと気はしている。

(原嶋副議長)

僕の立場からすると、ほかの市からいえば、例えば原嶋さんは青少年だと言われれば、素直に僕なんか従う。だから、名前が入っていればいいのだなど。むしろ僕が言いたいのは、こちら側のサイドの対応を、9月にないのであったら、ある程度絞っていったほうがいいのかなどというのはある。

(石原生涯学習課長)

会場の都合もあるので、各市何名ご参加いただけるのかというのは集約する必要があるのですが、そのときに参加委員さんがAグループ希望か、Bグループ希望かということをご記入の上、出席者をお返ししてほしいというやり方はできるのかもしれないけど、そうすると、回答の締め切りとして、9月末なり10月の頭ぐらいにならないと、ちょっとそこは。余り先にやっても、当日、予定していたより大分人数が少なくなってしまうということも考えられるので、早くても9月末、10月頭にはAグループ何人、Bグループ何人というのはわかるという状態よろしいか。

(中村議長)

よろしいのではないかと。9月末でどうか。9月末で集約すれば、小委員会の10月6日には何とかぎりぎり間に合うかなという感じがする。そういう聞き方にさせていただくということで、皆さんよろしいか。

(樹委員)

各市の議長、会長だけは重ならないように、ぜひばらけて入れていただきたいと思う。

(中村議長)

中に。

(樹委員)

はい。私たちがコーディネートする上で、次に頼りになるのは各市の議長さん、会長さんということかと思うので、そこをばらけていただく。もし8グループできてしまうと、会長さんとか足りないのか、副議長さんとか副会長さんとかもできるだけばらけて入れていただくような感じで考えていただくと心強いと思う。

(石原生涯学習課長)

では、必ずしも希望どおりではなくて、配分を見て小金井市で微調整させていただくこともあるので、ご了解してほしいということで市側には伝える。

(中村議長)

では、石原課長、そのあたり、うまく書面上工夫していただいて、お願いできるか。

一応、9月末集約ということで、各市から締め切りを設けて回答いただくということで。10月6日の小委員会には、普通にいけば間に合うであろうということになる。

あと、皆さんにおかれては、その辺を踏まえて、10月の上旬ぐらいから10月25日までお勉強いただくとか、そういう感じをお願いする。

(小山田委員)

そうすると、時間配分的なところもあるけれども、プログラムとして、最初は2時からということで、ご挨拶等はある。

(中村議長)

ある。

(小山田委員)

それは何名ぐらいとか。

(中村議長)

通例は上部団体からのご挨拶がある。だから、主催者の山本教育長からのご挨拶。教育長はご参加いただけるということはこの間伺っている。だから、そのお二人ぐらい。挨拶で10分程度と考えていいのではないかと思う。

(小山田委員)

施設見学を終わった後、一応移動と休憩という形で。

(中村議長)

そうである。その辺の細かなスケジュールについては、今後、私と小山田委員で、事務局も入っていただいて考えていきたいと思う。その辺、また時間を設けて打ち合わせさせていただきたいと思う。ご協力いただけないか。では、事務局もちょっと。

(原嶋副議長)

式次第みたいのがあって、来賓がしゃべって。その後、移動の時間がある。僕が頭にあるのも、2部の懇親会だけ。だけど、当然その2部までのスケジュールが何時までというのを、いわゆる全体像みたいなものがあるといいのかなと思う。

(中村議長)

そうである。それとともに、あと、どなたが、どういう役割を分担していただくかというのがあると思う。例えば貫井北町センターから商工会館まで、かなり道のりがあるから、その辺の誘導をどうするかいろいろある。受付をどうするか、そういった人員配置も含めて、ご一任いただければ、その時間配分、スケジュール的なものと、それから、誰がどういう分担をするかというところがあるかと思う。その辺はご一任いただいて、不公平にならないような形で考えさせているので、ご一任いただければと思う。

では、スケジュールと人員配置については、ご一任いただけないか。素案ができたなら、皆さんに早めにご報告させる。本会議は大分先なので、皆さんには事務局からのメール連絡という形になろうかと思うけど、お任せいただきたい。

これについて、皆さんほかにご意見とかご指摘いただくことがあれば、よろしいか。

では、協議事項2、3のブロック会議、ブロック研修会について、これはよろしいか。

(4) 科学の祭典について

(中村議長)

続いて、科学の祭典についてであるが、それは、この前臨時で会議を持って、参加された委員の方には、詳細はご連絡させていただいている。この中では、お一方だけご参加されなかった。前回の会議資料は、不参加者の方には配っていただいているか。

(石原生涯学習課長)

事務局は出てないので、社会教育委員さんだけの集まりでやったので、事務局自体、どんなテーマがあったのか承知していない。

(中村議長)

科学の祭典については、きょう11時半から602で準備を行うけれども、その際に、今回お手伝いいただく前期の社会教育委員副議長の伊藤さんにお越しいただいて、お手伝いいただく内容についてお話を5分ぐらい。それからあと、作業的には、工作をちょっとお手伝いいただくというところである。

スケジュール、あるいは人員配置の中で、実は本多委員から、人員配置の面で手薄な時間帯があるというご指摘をいただいた。当日は、午前中は人数的に少ないのではないかとということで危惧される。8月31日は、本多委員、石田委員、小山田委員、樋口委員、そして私ということである。

(本多委員)

あと、臨時の方もとりあえず入れて。

(中村議長)

それって例の中島さん。

(本多委員)

はい。あとボランティアの人が2人いるので。

(中村議長)

来る。それは学生か。でも、これ見ると参加人数は同じである。

(本多委員)

手があったほうがいい。

(中村議長)

31日は樹委員、清水委員、本多委員、原嶋副議長という4人だが、午後の方で、多少午前早めに、前倒しで来ていただける方っていらっしやらないか。お昼かぶるような形。樹さん、どうか。

(樹委員)

私、12時までには予定が入っているので、すみません。

(中村議長)

なるほど。清水さん、どうか。

(清水委員)

私もちょっと、お昼過ぎから。

(中村議長)

きついか。

(原嶋副議長)

僕、午前中。午後は夜遅くまで大丈夫だけど、ちょっと午前はあいてない。懇親会も出る。

(本多委員)

そうすると、臨時の方をお願いするか。

(中村議長)

中島さん。

(中村議長)

来ていただけそうか。

(本多委員)

お願いすれば、来ていただける。

(中村議長)

では、お願いして。

(中村議長)

去年は来ていただけたか。

(本多委員)

はい。

(中村議長)

では、ちょっと。

(本多委員)

お声かけて。

(中村議長)

では、一応お知らせだけでも、これからお声かけていただくことで、31日の午前については、前、市の職員の方で中島さんという方。前、公民館長をやっていた方だけでも、その方をお願いしてみるということで。業務がかなり多いということと、人も午前中のほうがかなり多かったと思うので、午前中を手厚くするという意味でお願いをする。

(清水委員)

一般が入ってくるのは10時ぐらいからである。

(中村議長)

そうである。一般は10時からどっと入ってくるので。

(本多委員)

昨年は、12時ごろに用意したものが全部なくなってしまった。一応300用意しているが、人数が午前中に集中すると、すぐ終わってしまう。

(中村議長)

それと、スケジュール的なこと以外に、例年、大体9月開催で、まだそれほど暑くもない。8月にことは実施になるので、屋内でも結構熱中症になるケースってあると思うので、その辺の水分補給とか、熱中症対策は十分やっていただいたらいいと思う。学芸大は、たしか冷房はなかった。

(小山田委員)

締め切って一度下げれば大丈夫。開きっ放しなので、どうしても冷温度が下がってこないのは仕方ない。

(中村議長)

人が結構入るので、結構蒸し暑い。だから熱中症にならないでもない、この状況だと。ひとつ、その辺の対策を事前にお願ひできればしたいのであるが。

それから、お弁当は皆さんに支給される。科学の祭典の関係で何かないか。ご不明な点とか、ご意見とかないか。大丈夫か。

(5) その他

(中村議長)

最後に、皆さんにお配りした資料の中にビブリオバトルというのがあると思う。実は、私がかかりしつくお願ひして、ようやくこれが実現の運びとなった。これ、小金井では初めてである。周辺の市でもこれを行っているところはまだないと思う。中野区でやっているぐらいである。

これ、実は9月27日の午後2時から、北町センター2階の学習室Aで開催される。これ、募集定員があつて、部屋の関係で、観覧者20名、発表者6名ということで、私の知っている範囲では、今まだ私を入れて二、三名というところだが、このイベントには北町センターのNPOの昼間理事長もご参加いただける。

実はこれ、プレイベントということで、11月1日にビブリオバトルの本選考をやる予定である。そのプレイベントということで、どんな内容かというのを実際やってみようということである。

実は私、人手が少なければ、発表者6人の中に入りそうである。余り恥をさらしたくないのだけど、私が本の発表をしないといけないということにもなりかねないので、皆さん、よろしかったら、お忙しいと思うけど、9月27日の土曜日午後2時から、ビブリオバトルということで、ぜひご来場いただければと思っている。

(石田委員)

これについて、先日、図書委員会の評議委員のほうで、科学の祭典の準備会をしながら、これが話題になって、評議委員がぜひ傍観者のほうにも行きたいと。そして、ビブリオバトルで、竹

内さんというすごくなさっている方がいらっしゃるということで、その方と仲のいい方がいらっしゃって、評議委員の中ではすごく評判になっていた。そして、こういう企画をぜひ評議委員が持ちたいというところまで盛り上がっていた。だから、もし観覧者の20人の中に、これ、人数のあれがあるようだったら、評議委員の方に声をかけていただけたら皆さん喜ぶかなと思っている。

(中村議長)

では、石田さんも参加して。

(石田委員)

私、仕事である。11月1日は仕事をずらせるまだ可能性があるけど、行きたいのだけど、仕事が入っている。

(中村議長)

これ、皆さんに何回も、樹さんとか本多さんをご存じだと思う。ビブリオバトルというのは、もともと数年前に京大の理系の研究室で、読書会というのではおもしろくないから、もっと変わった方法で、本に対する興味を持てるようにできないかということで始まったのがきっかけである。京大の今は立命館大学の教授の方が始められたのだけれども、勉強会の一環で、自分の関心の持った本を、持ち時間5分間の中で皆さんにプレゼンするわけである。5分間でプレゼンして、発表者が5人とか6人とか発表していくわけである。観覧者がいて、自分が一番読みたくなった本に手を挙げるわけである。自分が一番読みたくなった本で、最多得票を得た本がチャンプ本ということで、そのチャンプ本というのを選ぶためにやるわけである。

実は私、去年の12月に、これの高校生大会、それからあと社会人大会、2つある。両方参加したけど、非常におもしろい。これは文春の新書から本も出ているのだけど、「ビブリオバトル」ということで、その副題が「本を知り人を知る書評ゲーム」ということで、これは非常におもしろい。これはもともと前猪瀬都知事が推進していたことなので、猪瀬さんもいろいろごたごたしている時期だけど、出てきている。

これは実はこぼれ話であるけれども、今、北町センターの分室長の田中さんという方に、私は何度もやらないかとしつこく言っていた。そうしたら、それとともに、この前、議会である議員がビブリオバトルをやったらどうかという提案をされて、田中さんも割とその辺で意識をさせていただいていたので、ご自身が参加されて、中野区の図書館が主催するビブリオバトルにお出になられた。発表者で、発表されたらチャンプ本を獲得されたということで、ご自身がみずから実践されて、これはよかったということで、今回の9月27日の実施になったということである。

これについては、実は教育長も11月1日はお越しいただけるということで、内諾は得ていて、これは非常におもしろい試みだと思う。これは、まず本を読まないで発表できないということと、あと、本の内容を発表するに当たって、プレゼン能力を必要とするわけで、今、そのプレゼン能力というのは日本人が一番不得意とする部分だと思うので、そういう一石二鳥の効果があって、これは私、参加して思ったのだが、人によって発表の仕方が千差万別。本だけではなしに、その

人となりというのも発表するときに出てきて、非常におもしろい。これが今、全国でもどんどん普及して行って、なかなかおもしろい試みだなというのは、参加していただくとわかると思う。

だから、そういう意味で、これは社会教育の一つの活動ということで、9月27日土曜日の午後2時から、北町センター2階学習室。参加申し込みは電話で承っているので、恐らく田中館長が電話に出られると思う。ぜひよろしく願います。こういう本である。

11月1日が、いわゆる本選というか、対象は若者だったと思うので、ぜひご参加いただきたい。以上である。

(石原生涯学習課長)

あと、連絡事項で、次回の日程の確認をさせてほしい。小委員会を10月9日の9時半から602会議室で開催する。皆さんご参加いただく本会議については、次回は10月24日の9時半から、ここと同じ場所、801会議室で開催するので、よろしく。

(清水委員)

すみません、ちょっと私、ここで中座させてもらう。実は今週日曜日に、小金井薪能がある。何とか天気も曇りマークが出ているので、小金井公園でやる場合には、当日チケットが小金井公園の売店で売っているはずである。雨が降ってしまうと中央大附属高等学校の講堂。こちらは当日券なしということで、晴れている場合はぜひ当日券をご購入いただいて、非常に伝統的な幽玄の世界をお楽しみいただければということで、よろしく願います。どうもすみません。

(本多委員)

私の方だが、市報8月15日号の官公署だよりに出ているが、東京大茶会です。すみません、その9月27日がぶっかってしまっているのです。一応、27日28日開催です。ご案内したい。インターネットと、はがきで申し込みが出来る。締め切り8月31日です。「東京大茶会2014」年でインターネットをあけていただくと、詳細が入っているので、ぜひよろしく願います。館長さんのところへ、当会から連絡があったか。

(前島公民館長)

ちょっと記憶にない。

(本多委員)

ああそうか。すみません。多分宣伝がされると思うけど、6回目を迎えるので、ポスターのお願いで多分行くと思う。よろしく願います。

宣伝させていただいてすみません。

(中村議長)

パンフレットはあるか。

(本多委員)

ある。

(中村議長)

では、後でパンフレットを配っていただいて。

それから、申しおくれた。このビブリオバトル、先週の段階で3人ぐらいしかまだ出ていない。だから、今、皆さんに2枚ずつお渡ししているが、もう一つどなたかにお渡しいただいて、ぜひ定員の26名まで持っていきたいと思う。ご協力をよろしく願います。事務局のほうでよろしく願います。

事務局からないか。

(石原生涯学習課長)

以上である。

(中村議長)

なければ、この会議は閉じる。また2部がきょうはあるので、お疲れさまだった。ありがとう。

以上